

中等教育研究紀要

第 63 号

読みのバージョンⅡ －語りのダイナミズムへ－	竹村信治	(3)
聞き手を意識する返歌創作の授業	古田尚行	(11)
世界史におけるアクティヴ・ラーニングの開発研究 －学びの段階性と向上性の保障－	宮本英征	(21)
対立をこえるための公民科授業の構想 －哲学の自然主義的転回をふまえた公民科授業への「感情」の導入－	阿部哲久	(29)
高等学校数学における放物線の指導に関する考察	井上芳文	(39)
てこランク機構を題材とする中学校数学の授業実践	森脇政泰	(47)
地学基礎「地球の形と大きさ」における学びを深める単元構成	杉田泰一	(53)
中学1年生による小学校英語活動に対するとらえ方について －書く活動の有無と開始学年による意識の違いについて－	石原義文	(61)
英語科におけるアクティブ・ラーニング型の授業を目指して（実践報告） －高校2年コミュニケーション英語Ⅱにおける、互いに教えあい学びあう授業の試み－	石原義文	(67)
『視写の書』を用いた高校生の英語ライティング技能向上	山岡大基	(75)
世界のソバ料理から日本の伝統食の力を再発見し未来に繋ぐ教材開発	一ノ瀬孝恵	(89)
VPDCA サイクルを活用し、積極的生徒指導の視点に立った生徒会活動の支援のあり方	吉田将康	(99)
和歌の特徴を考慮した系統的なアプローチの一試案	三根直美	(一)

2016

広島大学附属中・高等学校

「中等教育研究紀要」執筆要項

1. 本校における教育実践・研究の結果を「中等教育研究紀要」に発表するものとする。
2. 「中等教育研究紀要」の編集およびアセスメントには編集委員会があたる。
3. 執筆要項
 - ① 未発表の論文で、中等教育の発展に資する研究論文、実践記録であること。
 - ② 執筆者は本校の成員であること。ただし、必要に応じ大学関係者等の教育関係者を研究協力者に加えることができる。
 - ③ 原稿は、横書きの場合23字×48行の2段組、縦書きの場合35字×30行の2段組とし、仕上がり時で16頁以内とする。ただし、編集委員会で承認されたもの、教科またはそれに準ずる共同研究の場合には、この限りではない。
 - ④ 論文概要（600字程度、頁数に含む）および英字の題目と名前をつけること。
 - ⑤ 原則として電子ファイルと共に提出すること。
 - ⑥ 表や図および写真は必要最小限の範囲で利用し、その大きさはあらかじめ執筆者が指定すること。
 - ⑦ 外国人・地名に原語を用いるほかは、文章中の外国語にはなるべく訳語をつけること。また、アルファベットは半角文字で記すこと。
 - ⑧ 数字は算用数字を用い、半角文字で記すこと。
 - ⑨ 注、引用文献および参考文献は論文末に引用の順に従って、一括して掲げる。本文では関連部分に半カッコでくくった番号のみをつけること。[引用参考文献の示し方]を参照。
 - ⑩ 英文抄本付与および広島大学学術情報リポジトリ登録義務化にともない、英文タイトルおよび抄録を作成し、原稿とは別ファイル（Word形式）で提出すること。編集委員会より一括してライティングセンターへ送付し校正を受け、校正終了後に執筆者が最終確認する。
4. 本中等教育研究紀要を学校または学校が委託した機関が電子化し、英文抄本を付して広島大学学術情報リポジトリ公開することについて、執筆者は同意したものとする。

[引用参考文献の示し方]

- * 和書・単行本・・・著者名、『書名』、出版社、出版年、該当頁。
例) 多田富雄、『免疫の意味論』、青土社、1993年、127.
- * 和書・論文・・・著者名、「論文名」、『掲載雑誌名』、巻数および号数、出版年、該当頁。
例) 位古田 理、「カントにおける経験のアナログアの意義」、日本哲学会編『哲学』、No.43、1993年、135.
- * 洋書・単行本・・・著者名、書名（イタリック体または下線を引く）、編者、出版社、出版年、該当頁。
例) John Stuart Mill, *Autobiography and Literary*, ed. John M. Robinson and Jack Stillinger, University of Toronto Press, 1980, 15.
- * 洋書・論文・・・著者名、「論文名」、雑誌名（イタリック体または下線を引く）、巻数および号数、出版年、該当頁。
例) J.R.Chipperfield, "Preparation of Compress", *Journal of Chemical Education*, 71, 1994, 75.
- * ウェブ上の文書・・・筆者・発行者、「文書名」、出版年、URL（閲覧日：日付）
例) 独立行政法人科学技術振興機構、「JST 長期ビジョン2014」、2014年、
<http://www.jst.go.jp/pdf/longvision2014.pdf>（閲覧日：2014年12月3日）